

平成 22 年度

事業所名 : グループホーム にこトピア浄法寺

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391300019		
法人名	株式会社 サンメディックス		
事業所名	グループホーム にこトピア浄法寺		
所在地	〒028-6911岩手県二戸市浄法寺町上前田34番地		
自己評価作成日	平成 23年 2月 15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=0391300019&amp;SCD=320">http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=0391300019&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 23年 2月21日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

おもてなしを念頭に、利用者の自己実現を可能な限り実現できるよう支援している。施設周辺は山々に囲まれており、山菜とり、栗ひろい等自然と触れ合い回想できる環境の中で支援を行っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームは高台に位置し、廃校した小学校を改修した建物の2階にある。遠景に西岳などの美しい山並みが広がり、近くには地元の人々が親しむ稲庭高原があり、四季を通じて豊かな自然環境にある。これらの環境面は上手に活かされており、敷地の地域開放や体育館行事による地域住民、子供たちとの交流など、地域との連携や協力が双方向的な関係にあるほか、稲庭高原では山菜や栗拾いなど、四季を通じて自然とのふれあいを楽しみながら利用者はゆったりと過ごしている。階下には小規模多機能施設があり、行事や会議、安全管理等の共有化、利用者間の交流による馴染み関係の深まりなど、効果的な運用となっている。また新たに空き居室を利用するショートステイの導入で、地域サービスへの拡充、スプリンクラー設置による運営体制の充実とその改善が図られている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

事業所名：グループホーム にこピア浄法寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ理念の他に、グループホームとしての理念を掲げ、朝礼の際に唱和し、日々理念に沿った支援を心がけている。	「一人ひとりの思いを大切にケアと家族のきずな」を強調したホーム独自の理念を掲げ、ホーム内数箇所に掲示して職員の意識化と共に唱和をしながら全職員で共通したケアを実践していけるよう取り組んでいる。	開設して5年目を節目に、理念の見直したいとしており、事業所や地域の状況、利用者のニーズの変化に合わせて理念作りとその共有、実践に至ることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	老人クラブよりゲートボールの練習、大会の際に敷地内グラウンドを提供し、見物を行っている。他に地域消防団員と連携をとり、避難訓練を行っている。	地元スーパーへの買物、中学生の合唱等による交流、ゲートボール大会には敷地内グラウンドを提供、お祭り参加等、地域と繋がる機会を活かしながら、双方向的な交流を深めている。なお敷地内除雪協力も頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	祭りへの参加、買い物の同行等、利用者が地域社会へ参加していく事で、地元住民との交流し、認知症との関わりをもっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の割合で運営推進会議を開催し、施設状況や意見交換を行った。	新たに地区消防団員が委員となって頂いたことで、地元の声が身近になり意見・助言等を得ている。委員からの提案がスプリンクラーの設置につながっている。一方で、改善課題等、十分な話し合いが行われるまでには至っていない側面もあり、今後の課題としている。	運営推進会議はケアの向上や地域との交流を図っていく上で大きな役割をもっているため、テーマの設定等会議の運営方法を工夫され、活発な意見交換の場となるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	渉外活動を通じ、施設の状況を伝えている。不明な点は、連絡を取り合い説明し、理解して頂いている。	市の担当者とは生活保護申請、利用状況等の問い合わせや報告など情報交換している。なお運営推進会議を通じて行政からの情報を得ているほか相談やアドバイスを頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルを用意している。利用者の行動、訴えに制限を設けず、その都度対応している。	身体拘束廃止マニュアルが用意されており、拘束の弊害について職員はよく認識している。ホームが2階であることから、帰宅願望等への見守りとしてエレベーター利用や階段の安全確保が課題の時期もあったというが現在は落ち着いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを用いての勉強会実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルを用いての勉強会実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所面談時、入所契約時と契約書、重要事項説明と説明を行い、不明な点について説明し、内容を理解していただくよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族宛のアンケートを実施し、施設への要望、改善点について意見を頂いている。	利用者については日常の関わりの中で把握できるように努め、家族へは、来訪時に会計報告や介護計画の説明時に積極的に話しかけ、安心して話し合える場面を作っている。なお家族アンケートで得た内容を検討し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議を行い、第三者的立場からの意見を頂いている。	毎月の職員会議では、勤務体制や業務運営面についても職員が率直に改善意見を述べているほか、随時「検討ノート」にも職員が意見を記入し、これを職員会議で検討してホームの運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表を作成し、各職員の勤務体形の把握を行っている。職員とのカンファレンスを行い、意見を現場に反映する事で皆で建設的介護支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内外の研修に参加し、内容を習得する事で自己啓発に繋げている。また、利用者対応として現場職員とカンファレンスを行い、変化に応じた支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部実習を取り入れ、施設の交流を図っている。他、広域内でのスポーツ活動に参加し、交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申請の段階で本人様と会い、面談を行って不明点、不安な点を把握して入所時、対応に役立っている。入所時、不安感を与えないようマンツーマン対応を行い、他利用者との接点を作るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時、入所時と不明な点について話し合い、安心していただいた上で入所していただいている。入所後、利用者の状態を報告し、連絡をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申請が会った際にグループホームの目的を説明している。内容に相違があった場合、併設している事業所を紹介し、選択できるように伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事後、食器拭き掃除をしていただき、共有空間の環境整備に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各居室担当を配備し、広報を通じて連絡をとっている。必要があった場合には直接連絡をし、要望を伝えながら、ご家族の希望を聞き入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	公衆電話を設置し、いつでも家族、親戚へ連絡できるようにしている。他に、外出の機会をつくり、ドライブをしながら馴染みの地域へ出向き回想している。	一戸、二戸方面へのドライブで懐かしい地元食や風景を楽しんだり、親類縁者と出会えるような墓参、日帰り温泉など、馴染んだ場所や馴染みの人々と出会う機会の継続支援に努めている。また電話で大切な人への絆支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないよう、職員が仲介に入りコミュニケーションをとっている。また、ホールへ、ソファ、テレビ、コタツを用意し、談話しやすい環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の生活状況について電話連絡をして、様子の確認を行っている。必要な書類が発生した場合は対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	相談の際、生活歴、入所後の希望を聞き、情報を元にできる事を本人に実行していただいている。本人より情報収集が困難な場合は家族より情報を得て支援に反映している。	日常的な関りの中で把握できるように努めているほか、入浴時や夜勤時など「二人きりになれる」場や時間を共有しながら、情報を得る機会を大切にしている。更にはセンター方式に学びながら、思いや意向を深めたいとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談記録を元に介護支援に役立てている。施設周辺に畑をつくり、園芸療法を取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録を用い、個々の生活状況について記録をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランをもとに支援を行っている。定期的にケースカンファレンスを行い、現状に合わせた介護支援を行っている。	アセスメントをもとに計画作成担当者が計画案を作成し、ケアカンファレンスを経て、利用者・家族の希望・意見を取り入れて計画を作成している。さらに定期的な見直し(3ヵ月後毎)のほか、状況変化に応じて随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録への経過記録の他に、連絡帳を活用し、日々の対応について気づきや対応の変化を記載して、共有した対応に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行事を通じ、併設している事業所と合同で行事を行ない、利用者の行動の幅を広げられるよう、きっかけ作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物の同行や行事参加をして、地域との交流に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、医療協力病院への受診対応が可能である事を伝え、定期受診、急変時の対応と必要な場合、通院して診断して頂いている。	本人、家族の希望する主治医となっており、受診は、家族同伴となっており、その際には生活記録で本人情報を提供している。定期的受診(診療所)には職員も同行し、本人の症状経過と共に投薬処方アドバイスを受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護での判断が必要な場合は看護師へ状況報告をし、判断の元、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、面会に行き医療関係者状況交換をおこなっている。ご家族とも連絡をとり、今後の支援体制について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を契約時に結び、契約に沿った対応をしている。	入居時に「利用者の重度化及び看取り介護に関する指針」について説明しているが、利用者の状況に応じて段階的に話し合いを行うとしている。これまで重度化対応については実績があるが、看取り介護に取組んだ例はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED講習を通じ、心肺蘇生法の知識、技術を習得している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年3回実施し、緊急時に対する対処法を訓練している。また、地域消防団員の協力を得て避難訓練を行っている。	地元消防12分団員(推進会議委員)の日常的なアドバイスや協力のほか、スプリンクラーの設置で防火体制の充実が図られている。避難訓練も夜間を想定した訓練実施のほか、職員は、火災報知器及び消火器、AEDの操作訓練をしているが、2階からの避難方法が課題としている。	2階からの避難ゆえの難しさもあろうが、スプリンクラーの設置に伴う避難について、地域消防団の助言等も仰ぎながら体制構想を立て直す心構えが大切かと考える。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マニュアル、介護マニュアルを元に、関わりに対して注意点を踏まえて対応している。	呼称は「さん」で統一し、居室への入室には本人の承諾を得た上で出入りしている。職員は方言を交えたりして、本人に合わせて分かりやすく声がけし、失禁やトイレ誘導などへの気遣いがよく、本人に恥ずかしい思いをさせないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の関わりの中で、自己決定を重視し、その人のペースに合わせた対応を行っている。自己決定能力の低下が見られる利用者には選択できるよう声かけを行い、自己決定しやすいよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入起床、食事等、本人のペースに合わせ対応している。希望があった場合は希望に沿った対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や入浴準備の際に職員と一緒に準備を行い、利用者の気分に合わせて物を着用できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューを作成する際に利用者の嗜好品を確認しながら、メニューを作成している。残存能力を生かせるよう、できる事は利用者に行ってもらっている。	利用者の居場所と厨房の距離感も程よく、食事の準備や後片付けなど一緒に行っている。利用者の好みを聴いて献立をたて、摂食や嚥下の状態によっては刻みなど個別に配慮しながら、なるべく自力で摂取できるよう支援している。	利用者のペースに合わせながら、味覚、臭覚などの感覚機能に訴えながら、食欲をそそる言葉かけや、摂食しやすい体位などへの細やかな配慮など、今後も継続していくことを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表作成の際は、1日に肉、野菜、魚を摂取できるよう、調整して献立表を作成している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	業務マニュアルの中に口腔ケア支援を盛り込み、毎食後、口腔ケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に排泄時、トイレ誘導時にその都度チェックし、各々の排泄パターンを理解したうえで声かけを行っている。	排泄動作の自立度や習慣、失禁状態をチェック表で把握し、その人のシグナルで声がけや誘導をし、トイレでの排泄の自立に向けた支援のほか、パット、リハビリパンツ等も一人ひとりの状態に応じて検討しながら活用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用いて排泄パターンの把握をしている。便秘の方に対して水分量の調節、処方された下剤を内服していただき、便秘の改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の声かけを行い、利用者のタイミングに合わせ、入浴して頂いている。時には、仲のよい利用者同士で入浴される場合もあり、状況に合わせた対応を行っている。	脱衣室には、椅子を配置し脱衣しやすい環境や浴室はゆったりと介助できるスペースも確保されている。利用者の体調や希望を考慮しながら清潔保持のため最低一日おきの入浴となっており、職員と楽しく話したり、仲のよい利用者同士で入ったりして、ゆっくりとくつろいだ気分で過ごせるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠の時間は個々に合わせた時間で入床されている。日によって不眠の方にはホールで時間を過ごしていただき、落ち着いたところで入眠していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本、看護師が通院対応している。通院後、通院録を記載し、口頭その他、各職員へ伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯たたみ等の他、行事を企画して外出やおやつ作りを行ない、楽しむ事ができるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物の同行や、畑作業を行い、自己実現の幅を広げられるよう支援している。	散歩はゴミ捨てを兼ねて日課のように行っているほか、畑の草取り、敷地内のベンチで日向ぼっこや、土手の草花摘み、稲庭高原での山菜取りを楽しむなど、元校舎だった広いスペースや恵まれた自然を活かしている。また、冬季間は体育館でリハビリを兼ねた軽体操や歩行訓練をしながら気分転換を図っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事で外出の機会を設け、店に立ち寄る事で買い物の機会を提供している。他に施設内に自動販売機を設置し、身近に金銭を使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内に電話帳、公衆電話を設置し、自分の意思でご家族、親族と連絡をとれるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間をつくる為、ソファや畳み間を設置し、利用者が孤立しないよう環境整備を行っている。	廃校舎を改修していることから、広い廊下にはエレベーターが設置され家族との絆をつなぐ公衆電話も置かれている。壁面には行事写真や絵画などが飾られ、空間の大枠のガラス窓からの日差しが心地よく、コーナーには新聞や図書も置かれ、利用者はそれぞれに献立メニュー写真を楽しんだり、畳敷きの小上がりではテレビを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファ、こたつ、茶類を設置し、共用で利用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、馴染みの物を持ち込んで良い事を伝え入所されている。居室に時計、写真、アルバム等馴染みの物を置いている。	引き戸のドア巾が広く車椅子対応となっており、居室には、ベッドとクローゼットが設置され利便性に配慮している。遺影や家族写真、日本人形、時計、ラジオなどが持ち込まれ、清掃などは職員と一緒にいき、居心地よい環境が整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内部はバリアフリーとし、廊下には手すりを設置し、できる限り自立した生活を送れるよう配慮している。		